

伊勢原市青少年育成審議会第2回審議会 会議録

〔事務局〕 子ども部青少年課

〔開催日時〕 平成27年11月25日(水) 午後7時～8時30分

〔開催場所〕 伊勢原市青少年センター 工芸室

〔出席者〕

(委員) 芦原秀人、宮森孝史、冨塚正、山元朋美、若松 操、吉田幸代、錦織 勝、
平田恵子、河口友喜、橋口龍郎、古谷仁志、市川範朗、上條茉莉子、
青木清徳、高橋一枝

(事務局) 子ども部長、青少年課長 外1名

〔公開可否〕 公開

〔傍聴者数〕 0名

《審議の経過》

1 開会 会長あいさつ

2 議事

「子ども・若者を育てる地域社会づくり（子ども会・放課後子ども教室のあり方）」
事務局から、本審議会のテーマについて、会議資料に基づき説明あり。

(事務局)

- ・子ども・若者を育成する団体や事業では、協力者をいかに確保するかが課題
- ・今回は、地域住民などが中心となって、子ども・若者を育成する仕組みづくりを協議願いたい。
- ・青少年課が所管する団体や事業の内容及び課題を説明した。
- ・平成23・24年度本審議会で討議した「子どもの放課後の遊び場やさまざまな活動の場づくり」について説明した。

(会長) 事務局の説明があった。イメージ図の中のいくつかの団体についてまず質問する。
現在の子ども会育成会の役員、指導者は子どもがいないとなれないのか。

(事務局) そのような決まりはない。通常、子ども会の保護者になっている場合が多い。
地域によっては、既に我が子が大きくなって成人していても、役員として関わっている場合もある。

(会長) 近隣市では2, 3年前、子ども会加入率が20～30%だった。

(委員) 市内では地域にもよるが、スポーツクラブ等の活動のため子ども会にはほとんど参加できない人もいる。スポーツ教室の費用と参加できない子ども会費用を出すのは納得できないと話す保護者もいる。

(会長) 市内では、子ども会加入率が100%の地区もある。児童数が少ないことと思うが。他の地区はどうか。

(委員) うちの地区は子ども会の団体(市子連等)からは脱退して、独自の活動をしている。役員のみ手がなから脱退したのだ。

(会長) 市子連から今年脱退する地区があると聞いた。

(委員) それは、踏みとどまることになった。

(委員) 子ども会には入っていない地域では、自治会主導で世代交流会がある。3回目である。1回目は芋を栽培し、収穫し交流会を持った。去年はゲームと餅つき大会をした。今年も予定している。

(会長) 子ども会加入率が100%という小学校区があるが、何か訳があるのか。

(委員) その小学校に入学した時点で入るようになったようだ。

(委員) その小学校の保護者である。学校では、子ども会加入率100%を維持するために子ども会と学校とが連携すべきとの提案があったらしい。入学説明会に子ども会の方が入学者に向けて加入説明を行い、100%を維持するという方策をとっている。この手立てで100%という数字が保たれていると思う。

(会長) 市内では、子ども会育成会の面倒を見る方は、減っているようだが、その小学校はどうなっているのか。

(委員) 保護者が入れ替わって役に就いている。OB、OGはやってないと思う。現在の子どもの保護者が担当しているから選出するエネルギーがベースに保たれていて結果的に高い組織率を保つ一つの要因になっている。

(会長) 近隣市では、自治会の子ども育成部というのがその部で子ども会的な活動を担当しているところもある。

(委員) 別の小学校もそういうところがある。自治会の会長が入っている。

(委員) また別の小学校では、地区によっては子どもの数の差にばらつきがある。小学生の子どもがほとんどいないところもあり、地区運動会もできにくくなっている状況である。中学生を入れていても維持できない地区もある。

(会長) 中学生・高校生も入れている団体もある。

(委員) 子ども会の参加率について話し合いが集中しているが、このプラン自体はいろんな団体がかかわる児童コミュニティについて話し合っていくということでもいいか。

(事務局) そのとおりである。「子ども・若者を育てる地域社会づくり」について審議する。

(事務局) 子ども会に特化するのではなく、4つの団体を挙げたが、協力者、地域の人材を確保することが大変で不足していると言う現状を何とかしたいと考えた。

(委員) それらの団体に参加していなくても、地域の方で力となる人をどうやって集めるかということだと考えていいか。

(事務局) そのとおりである。

(会長) 事務局の説明した子ども会について詳しく分からない部分もあったため、ここま

で掘り下げて討議した。では、青少年指導員とか母親クラブ等についてはどうか。

(委員) スポーツ推進委員として未来っ子クラブに協力している。5, 6人が担当している。来年4月に入れ替えがある。退職しているような方、時間に余裕のある方を考えると、協力者を集めるのが難しい。

(会長) このイメージ図に書いてあるような課題についてはどうか。いかに人材を確保するかについてどうか。

(委員) どこの団体も人材確保が難しくなっている。自治会もそうだし、子ども会も同様、青少年指導員も来春で交代になるので地域で選出する難しさがある。自治会や地区によって苦しんでいるところはある。自治会長の推薦が必要で難しい。

(委員) 自分で1年かけて見つけることが経験上あった。

(委員) スポーツ推進委員を探すときもめぼしい方はいらっしゃらないかと自治会長に逆に尋ねられたことがある。

(委員) 地域の中で青少年指導員を精力的にこなせる人材を探すのが難しくなっている。ましてや街に行くほど自治会数が多いが、地域の事をよく知っている人が少ない。

(委員) 自治会長自身はその地域の事を全く知らないということがある。だから誰でもいいから、出してほしいという言い方になることもある。

(委員) 30~50代の仕事盛りの男性・お父さんは仕事先が遠くて、土・日は極力休みたいと考えているようだ。

(委員) 保護者レベルでは仕事もあり、けっこう難しい。定年を迎えた世代など、元気なシニアがたくさんいるようだ。自分の趣味もあるが、子どもの育成という意義を見つけてもらえれば、そういう方を生かすことができると思う。文科省系の『NEAL (ニール)』という活動、自然体験活動リーダーという資格がある。22.5時間の研修を受けると資格が持てる。そういうものを普及させることで、子どもと遊ぶことでシニアが生きがいを持ち、社会に貢献できる場を作ることにもなると思う。人手がほしい子育て世代はたくさんいる。シニアをきちんとした教育をして養成する中でこういう場のサポーターとして参加してみようという方も出てくると思う。

(委員) 65歳であるが、200万人位この世代はいる。今の子どもは100万人位だから元気なシニアを活用することはできると思う。

(委員) バジル・プロジェクトを始めて、3年になる。バーバとジージががんばルというプロジェクトである。子育て世代にシニア世代が子どもたちをちょっと預かるようなサービスがほしいか? やってみたいか? という調査をしたら、両世代とも大乗り気だった。ただし預ける側は 最近の知識、スキルがほしいということだった。だったら教育システムを作ればよいとなった。4つの研修コースを作ることにした。バジルマイスターという資格も作った。そして研修をつんだ者がシニア世代をきちんと教育していく地域展開できるところまでやってきた。県の助成を受け、内閣府の委託事業として、その中で葉山町でまず試行実験を行った。結果、ジージが出てこないという事からバジルマイスターという制度を

つくり、ジージが誇りを持って子ども達を指導できるようにした。以上、地域のために働く知識を持ったマイスターを活用できる制度を紹介した。

(委員) 子育てサポーターとして、赤ちゃん訪問をしている。民生委員も協力している。

(委員) 赤ちゃんだけでなく、他の子どもの世話について広げることができるかもしれない。

(委員) 子育てサロンを色々な公民館で活動している。活動を広げることができるかもしれない。

(委員) もう少し人材確保のために、スポーツを楽しんでいる元気な方々の 1 割くらいでも地域のために活動しないかとお願ひできるかもしれない。そうやって、コミュニティ再生もできるかもしれない。未来をつくる子ども達を育てるのにサポートするという意義を知らせれば、賛同してくださる方もいると思う。

(会長) 人材をいかに確保していくかについて話し合うことが大切だと改めて意識できた。スポーツ推進委員、子育てサポーターなどの役を兼ねている人が多い。そういう人は、人材を育成することに生きがいを感じてきている。そのあたりを感じてない方がまだまだいる。そのあたりをどうするか 話し合うわけである。では、別の事についてももう少し話したい。事務局どうか。

(事務局) 議論に感謝申し上げます。自分自身シニア世代の方の話になると考えていた。学生などの若い力の活用はどうかとも思う。ジュニア、シニアリーダーの方を生かしたいと考えても、彼らもなかなか忙しいようだ。審議会のこれからの日程があるが、今日は、課題を意識していただくまでであろう。これから課題について審議していただければと思う。

(会長) その他について説明願ひたい。

(事務局) 大まかなスケジュール案だが、予定として2月に視察を入れてある。最後は来年度にどうつなげるかを話し合うようにしたい。先進事例とあるが、それに対し、ご意見や要望を寄せていただいてもかまわない。今後は会長と話し合って進めていきたい。

(事務局) 今の話に補足するが、先進事例視察とあるが、「未来っ子クラブが」発足して間もないのでその様子を見ていただくという事も考えられる。現場の見学も選択の一つかと思うので、内容については事務局に預けてほしい。

(会長) 中央児童館でやっている「未来っ子クラブ」に行かれた方はいるか。ぜひ、見学したい方はいるか。私は見たいと思う。石田小はもう始まっているのか。

(事務局) 伊勢原小は90名ほどで毎週水曜日、石田小は150名ほどで毎週月曜日に実施している。実施の仕方は希望者が多く、グループに分けて順番に体験できるようにしている。伊勢原小は2グループであるので隔週。石田小は3つに分けているので3回ごとに行う。

(会長) 見学する場合は 事務局に頼むといいのか。

(事務局) そのとおりである。見学も構わないが、スタッフも募集しているので、ぜひ見

学して、協力できそうなら、申し込んでほしい。また、知り合いの方にも紹介して欲しい。先ほどの先進事例、別に考えている。「未来っ子クラブ」の見学は可能である。本日の内容は終了である。

(委員) 母親クラブについて、どのようにしてメンバーに入るのかを知りたい。年配の方が入っているのか。紹介とか？ ロコミで誘っているのか知りたい。

(事務局) 母親クラブ連絡会がそうである。こういう名称でなく自治会の中にも似たような活動をしている方はいるようだ。

(事務局) 補足する。青少年課が携わっているのは、母親クラブ連絡会である。イメージの説明だが、伊勢原市に子ども会育成会連絡協議会という団体がある。全国的組織とつながっている。子ども会としてこれに参加しているところとそうでない団体がある。しかし参加しなくても、子ども会として活動しているわけで、それと似たイメージとしてとらえていただきたい。3団体は伊勢原北地区を中心に組織されている。詳細は把握していないのだが、連絡会に属さないグループでも運動会や体力づくりなどの色々な場面で母親クラブとして力を貸しているようだ。

(会長) 議事を終結する。閉会を副会長にお願いしたい。

3 閉会

(副会長) テーマは設定されているわけである。課題について色々な意見が出された。人材確保には人材の組織づくりをする必要がある。今ある若者や子どもを支援する組織についてはわかった。

市がやるなら、市としての活動組織を大きく作り、その支部として、今ある団体を生かしていく。そこに市として人材派遣を行うということになる。人材バンクをきちんとつくるといったシステムづくりをしないとだめだと思う。実は6月にNPOの理事長をしている。県の委託を受けているNPOである。伊勢原市から委託を受けて、NPOから仕事をする人を派遣するという活動もしている。市としての子ども・若者を育てるための組織を決めていく必要があると思う。

次世代の子どもを育てるために支援していくということであるなら、審議会として、そういう事を話し合っていたらどうかと思う。今日の感想である。

色々な団体で活躍している方々は、力を持っているので、そういう方々を動かすためのつながりのための組織づくりが必要だろうという感想を持った。